

東舞子

2017/1/10 (1月号)
神戸市立東舞子小学校
平成28年度学校だより
<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

2017年のスタート～お正月今昔～

保護者の皆様、地域の皆様、新年あけましておめでとうございます。2017年がスタートしました。今年度は、曜日の関係で例年よりも5～6日長い冬休みとなりましたが、皆様は、どのようなお正月を迎えられたのでしょうか。三が日は穏やかな天気にも恵まれ、おそらく、子供たちと一緒に、ご家族で団欒を楽しまれたご家庭も多かったのではないのでしょうか。

お正月といえば、私が小さかった頃は、ほとんどの店がお休みで、前日の大晦日から母親がおせち料理の準備に追われ、夜になるとNHKの歌番組を見ながら年越しそばを食べ、年が明けると数日の食事は、そのおせち料理とお雑煮で済ませ、家族で初詣にでかけるという過ごし方が定番でした。子供の遊びにしても、現在のようなゲーム機はありませんでしたから、屋外では凧揚げやコマ回し、室内ではトランプやカルタ、双六といった遊び方をしていました。ところが今や、おせちは買うもの、或いはおせち料理そのものを用意しない（元日も店が開いているので買い物ができる）というのが当たり前ようになってきました。遊び方も、ゲーム機やスマホの普及に伴って、ひたすら液晶の画面を相手に、独りでボタン操作を繰り返すといった遊びが主流を占めるようになってきました。

ところで、AI (artificial intelligence) という言葉をご存知でしょうか。日本語に訳すと人工知能、すなわち、人間の代わりに考えたり、作業を行ったりする機械のことを意味します。お掃除ロボットや自動運転を搭載した車などは、既に実用化されています。先日も、新聞の記事にAI (人工知能) を駆使して、閣僚の国会答弁の下書きを作成する実験を経産省で始める旨が掲載されました。例えば、「省エネルギー政策を推進すべきか否か」という質問をコンピュータに入力すると、AI (人工知能) が過去に行われた国会の質疑から、政策のポイントや課題、論点などを整理して提示してくれるというのです。私が子供の頃は、人工知能というとアニメに描かれた鉄腕アトムやSF映画に出てくる意思を持ったロボットなど、空想の世界でしかありませんでした。けれども今や、音声認識や画像認識から推論に至るまで、人工知能が人間に取って代わろうとしています。アメリカ合衆国政府の報告書によると、AI (人工知能) の普及で業務の自動化が進み、近い将来、国内の数百万人に上る国民が現在の職を失う恐れがあると昨年末に発表しています。

昨年、中教審が示した指導要領改訂の基本方針にもあるように、社会の様々な分野でAI (人工知能) が台頭する将来の姿を見据えて、学校での「学びのかたち」の転換が求められています。英語教育におけるコミュニケーション能力の育成やプログラミング教育の導入など、社会の加速度的な変化を受け止め、将来の予測が難しい社会の中でも、過去の伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質と能力を確実に育むための改定でもあります。

AI (人工知能) の研究には、二通りの立場があり、一つは人間の知能そのものをもつ機械を作ろうとする立場で、もう一方は人間が知能を使ってすることを機械にさせようとする立場だそうです。そして、実際の研究のほとんどは、後者の研究だということです。人間が、道具としてのAI (人工知能) を利用することはあっても、SF映画の世界のように、人間がAI (人工知能) に支配されるようなことはあり得ないのです。

最後になりますが、17日(火)に今年度最後(3回目)となるオープンデーを実施いたします。TV放送による防災の集いや全校書初展も予定していますので、是非、ご来校くださいますようお願いいたします。

校長 梅鉢 泰博